平成 29 年２月８日

第 10 回 がん薬薬連携勉強会のお知らせ

時下、先生方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。下記の日程にてがん薬薬連携勉強会を開催致します。ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席下さいますようご案内申し上げます。

記

日　　時：　平成 29 年３月３日(金)　19：00～21：00

場　　所：　相澤病院　ヤマサホール（大）

【情報提供】　19：00～19：15
「アリムタについて」　日本イーライリリー株式会社オンコロジー事業本部　和田　直樹

【特別講演】　19：15～20：00
「胃癌・大腸癌の化学療法について(仮)」
相澤病院　化学療法科　統括医長　中村　将人　先生

【ディスカッション】 20:00～21：00
「地域医療の必要性と中信地区の今後の展望」　がん薬物療法認定薬剤師
松本市立病院　薬剤科　小野里　直彦　先生

H28 年８月より、がん薬薬連携勉強会を行って来ました。座学とグループディスカッションを通し、知識を深めながら、お互いのコミュニケーションが深まって来たことと思います。

今回は、まず「胃癌・大腸癌の化学療法について（仮)」をテーマに、点滴抗がん剤サイラムザ®（抗 VEGFR 抗体）を交えながら、薬物療法や副作用マネジメントなどについてご講演頂きます。

後半のグループディスカッションでは「地域連携（薬薬連携)」について、薬薬連携の現状を踏まえ、今後の中信地域での理想を求め、みなさまで話合いを行う機会にしたいと思います。皆様のご参加を心よりお待ちしています。

※本研修は「緩和薬物療法認定薬剤師の認定講習会（1 単位)」を申請しております。シールをご希望の方は 30 円（釣り銭の無いように）お願いします。
※本研修は日本薬剤師会研修センター研修認定薬剤師制度の認定対象シール（1 単位）の対象です。
（認定シールが必要な方は受付時にお申し付け下さい。松本薬剤師会会員は無料、その他の方は別途 500 円かかります。研修会自体の参加は無料です。）
※駐車場：　相澤病院第２駐車場にお停め下さい。（第二駐車場の場所は裏面を参照下さい）
駐車券を会場にお持ちいただき、無料券とお引き換え下さい。

【　本研修のＪＰＡＬＳ研修コードは　20-2016-0195-101　です】

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－出欠確認－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

２月 27 日（月）までにお申し込み下さい

３月３日（金）に参加致します。（　　）名

FAX 0263-35-9393　　松本薬剤師会事務局　宛

ご施設名　　代表者ご芳名

・本講演会にご参加を希望される方は、以下の個人情報のお取り扱いについてご同意いただいた上で、お申込みくださいますようお願いいたします。
・ご記入いただきました個人情報は、本講演会の出席者を把握し事務処理に使用する他、医薬品の適正使用に関する情報の提供、収集に限り使用します。また、ご記入いただきました個人情報は、当社の規定に従い厳重に管理いたします。

（共催）松本薬剤師会　日本イーライリリー株式会社

胃癌･大腸癌の化学療法について/ 地域（薬薬）連携

◆症例

59 歳女性　身長 157 ㎝、体重 50 ㎏　体表面積：1.48 ㎡

職業：事務員（主にパソコンに向かい、キーボードでタイプする仕事）

ある日、M 診療所に通っている患者さんが、いつもの糖尿病の処方せんを持って来局されました。お薬手帳を確認すると、T 病院より、点滴内容と思われるお薬手帳シールが貼られていました。（説明書は製薬メーカー作成のものを持っていました）

【いつもの処方箋】（M診療所）

グリメピリド錠１ｍｇ　　朝１　　30 日分

【お薬手帳シールに貼られて来たシール】（T病院）

2017 年３月３日　　T 病院

サイラムザ®点滴静注液　　400ｍｇ　（2 週間毎 Day1、15）

パクリタキセル点滴静注　　118ｍｇ　（3 週投与 1 週休薬）

予想される主な副作用 または　出現している副作用

□　悪心･嘔吐　□　口内炎　□　下痢

□　便秘　■　しびれ　□　皮膚･爪の変化

■　骨髄抑制（発熱など）■　その他（　高血圧　）

薬剤師コメント

初回導入の説明を実施しました。仕事柄、手指の痺れ（末梢神経障害）の発現を心配されています。またＤＭあり、血圧等につきフォローをお願いします。

来局後、インタビューにて、

「点滴治療が始まりました。先生から、点滴すると血圧が上がると聞いて一番不安です。」

「点滴中、薬剤師より副作用の説明を受けましたが、しびれや高額医療費の話等いろいろ他にも話があり少し混乱もあります。元々糖尿病ですし、血圧は、本当に大丈夫ですかね？？」

Q１-1．病名？ 病期は？　/　（高額療養費については？）

Q 1-2．血圧について、どう対応・説明・指導しますか？

裏面へ続きます

２カ月後、M診療所から以下の処方せんと、検査結果をもって来局されました。

【処方箋】（Ｔ病院）

Ｒｐ1）　グリメピリド錠 1ｍｇ　　１錠　　朝食後　　７日分
　　アジルサルタン錠２０ｍｇ　　１錠　　朝食後　　７日分

【尿検査結果】　尿たんぱく（３＋）

Ｑ２．どのように、説明・指導・対応などをしますか？

（アジルサルタン追加の理由は？）
（尿たんぱく 3＋の意味合いは？）

★ 参考資料

イーライリリーHP（サイラムザ®）　←　オススメ
サイラムザⓇ患者説明書
サイラムザⓇ適正使用ガイド　← オススメ
高血圧ガイドライン 2014
各種、副作用対策本など
胃がん治療ガイドライン 2014　　←　オススメ（WEB）
胃がん学会「ラムシルマブに対する速報版 2015 年５月」　←　オススメ（WEB）
尿たんぱく、血液検査について、各種本など

※　点滴の抗がん薬が主のテーマは、今回が初の試みであり、
また、お薬手帳を用いた薬薬連携の例として、当日のグループワークにて考える薬薬連携のイメージ作り等になればと思い、課題症例を設定することにしました。
医師による座学においても、登場する薬です。予習をお勧めいたします。

※　勉強会当日は、時間・進行等の都合により、この課題についてのグループディスカッションは行えない予定です。

以上